

# 分科会 13

## 地域移行支援の具体的連携方法と工夫

### ～ピアサポーターと病院・地域・行政の協働関係を創り上げるために～

コーディネーター：古屋龍太（日本社会事業大学大学院）

田中直樹（NPO法人全国精神障害者地域生活支援協議会）

スピーカー：鈴木直子（社会福祉法人巢立ち会）

下村明子（社会福祉法人巢立ち会）

浅野誠人（医療法人社団一陽会陽和病院）

中越章乃（神奈川県立保健福祉大学）

最初にコーディネーターの古屋氏より、精神保健福祉法の改正や「病床転換型住居」の議論等、現在の精神保健福祉や地域移行が直面している問題について整理と本分科会の趣旨説明がおこなわれました。「病床転換型住居」については本フォーラムのような場で討論し、声をあげていく意義があると思われませんが、本分科会では地域移行支援の全体像と多機関間連携の工夫がテーマとされています。

趣旨説明の後、中越より個別給付化後の実情調査に関する報告をさせていただきました。都道府県の担当者を対象とした調査では、多くの地域で課題を抱えたまま制度が進んでいる現状はあるものの、今後の協働の工夫によってはそれらが解消されうる可能性をお伝えしました。

社会福祉法人巢立ち会の鈴木氏からは、地域事業所が病院と一緒に組んで支援を進める中でのコツのようなものをお伝えいただきました。病棟内での活動や病棟スタッフとの役割について、病院に対して何かを望むのではなく、それぞれの病院に合わせて自分たちが柔軟にスタイルを変えていくようにしているとのことでした。そうすることにより、病棟スタッフとの情報交換がスムーズになり、チームと一緒に支援するという認識や方針を確認しあえるようになった等の報告がありました。

続いて、陽和病院の浅野氏からは、巢立ち会のピアサポーター、スタッフが病院に入り、一緒に支援をおこなうようになった経過や、どのように病棟に巢立ち会を受け入れ、チームとして支援を進めていったのか、病院の精神保健福祉士という立場で経験されたことをお話いただきました。病院側の窓口となる人が地域や生活支援、ピアサポーターを理解した上で病棟スタッフに丁寧に説明をおこなうこと、両者をつなぐこと。それらが時間をかけておこなわれ醸成されてきたことが感じられました。

続いて、10人程度のグループに分かれて、ワールドカフェ形式でのワークがおこなわれました（テーマは次ページを参照）。

自分の島（グループ）でテーマについて話し合い、出てきたキーワードを付箋で模造紙に貼っていきます。一定の時間が経ったら、島からみんなが他の島（他のグループ）に旅に出て、他の島で話し合われたことを聞きに行きます。島の主（1人）は島に残って、他の島から来る旅人に自分の島で話し合われたことを伝えます。これを何度

か繰り返します。

最後に、旅先で見聞きしたことをお土産にして自分の島に戻り、同じく旅から戻ったメンバーや島の主に伝えていくというものです。

今回は10以上の島がありました。時間が限られたこともあって、旅のスピードは加速する一方(!)でしたが、自分の島では聞いたことのない話や背景、工夫なども知ることができました。色んなタイプのお土産を島に持ち帰り、共有することができました。

地域生活に至るまでにどのような道をともし、歩むのか。機関や立場によって少しずつ違っているのかもしれませんが、ご本人を中心にしてみんなが同じ目的地を目指しています。目的地に向かうための地図を、お互いの顔の見える場で作ることが大切なことだと感じています。

《中越章乃（神奈川県立保健福祉大学）》

#### 「病院と地域・行政への橋渡し」

- 問題をあげつらうのではなく、課題解決を志向します
- 前半15分で「病院と地域・行政の連携協働」を妨げている課題を、いくつでも挙げてください
- 後半15分でそれに対して、どんな工夫や取り組み、仕掛けがあれば、「連携協働」の第一歩となるか、アイデアを出し合ってください

17

#### 「病院と地域・行政への橋渡し」

- それぞれの気づきをポストイット(付箋)に簡潔に言葉にして記し、共有してください
- テーブルの上の紙に「課題」と、これ乗り越えていく「取り組み・仕掛け」の「アイデア」を、分けけて貼り付けてみてください
- グループ全体で知恵を出し合って、共有してください

18